

令和4年度静岡県（藤枝市）地域社会少林寺拳法指導者研修会 報告書
【中学校武道必修化特化型】

期 間：令和4年9月10日（土）・11日（日）

場 所：静岡県武道館

参加者：82名

派遣講師：新井庸弘（大範士九段）、倉本亘康（准範士六段）

【1日目】

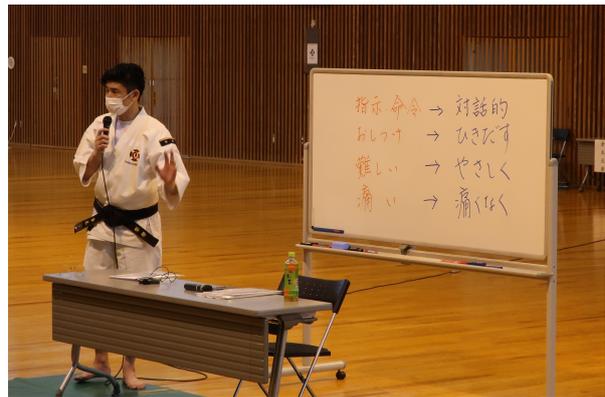
開講式に続いて鎮魂行が行われた。準備体操の後、倉本講師の号令にあわせて全体で基本動作（中段構から上段逆突・上段順突・中段逆突・中段順突・中段逆蹴・中段順蹴・内受・外受）を行い、それぞれの技の注意点を確認した。倉本講師は「下半身は不器用なため、足・腰・腕の順番で使い方を修正していくことが大切」と説明した。

その後、二人一組で「天地拳第一系」の動きを分解・確認をしながら練習を行った。

次に倉本講師による講義が行われた。講義では、2012年から中学校において武道が必修化され、9武道の中から体育の授業で武道を行うこととなり、少林寺拳法もその中の1つであると紹介した。少林寺拳法が専門でなくても、先生は体育の授業で少林寺拳法を教えることができると説明し、授業では、「たとえ話をうまく・簡潔明瞭な説明・イメージを引っ張ってくる（ICT）・目標が明確・ほめ上手・やっていることに意味を持たせられること」が重要であると述べた。

午後は倉本講師が実際に外部指導者として中学校で教えた方法を披露した。続いて、新井講師による「開祖とのやり取り」の講話が行われ、開祖との思い出や考え方を紹介し、「今後の指導に繋がるようにして欲しい」と結んだ。

最後に、参加者を2グループ（四段以上・三段以下）に分けて、派遣講師がそれぞれ指導した。受講生に対して、問いかけながら実技指導が行われ、初日の研修会が終了した。



講義をする倉本講師

【2日目】

午前中は、1日目同様に鎮魂行の後、準備体操を行った。次に、地元の齋藤講師による基本動作の実技指導が全体で行われ、講師は一つ一つの動作に解説を交えながら進められた。

その後、倉本講師が「マーケティングから見る少林寺拳法の可能性」について、講義をした。人類にとっての根源的な動機は、生殖・生存であるとし、生殖・生存の動機から8つのモチベーション（安全・進歩・決定・所有・帰属・地位・伝達・物語）があると説明した。参加者は所属グループごとに分かれて、モチベーションについて、ディスカッションした。

次に、参加者を習熟度別にグループ分けをして、講師の経験談を踏まえながら技を分解・紹介し、時折、笑い声がおこるなど、楽しい雰囲気での指導が行われた。

閉会式では、新井講師、倉本講師が講評を述べ、全体日程が終了した。

▽参加者の声

「今回、指導者研修会に参加して得たことをこれからの稽古に活かしていきたい」（男性）

「指導者としてのありかたを勉強することができた」（男性）